

2021 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツ学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	実習
科 目 名	柔道整復実技Ⅲ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時間	前期	教室名	第2校舎302教室
担 当 教 員	澤 卓 実	実務経験とその関連資格	専科教員(平成22年～現在に至る)、認定実技審査員(平成29年:整復実技) 講道館柔道初段(平成29年)、附属接骨院(平成19年～平成26年:柔道整復業務に従事)			
<p>《授業科目における学習内容》</p> <p>臨床でよく目にする上肢の脱臼の、発生機序、症状、施術方法、経過と予後を学習し、各損傷について、柔道整復師の施術範囲の鑑別や適応の判断、応急処置について理解し、各損傷に対する、施術の適応の判断ができ、損傷について適切な施術を行えるようになることを目標とする。</p>						
<p>《成績評価の方法と基準》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・後期末試験:90% ・各項目ごとの小テスト:10% 						
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>柔道整復学理論編(全国柔道整復学校協会編集) 柔道整復学実技編(全国柔道整復学校協会編集) PC、プロジェクター 【参考図書】標準整形外科学(改訂第12版:医学書院)</p>						
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>講義の内容確認の為、次回講義開始後、10分間を前回の講義復習時間とし、教科書、配布プリントの内容を中心に復習し、各項目ごとに小テストを実施。 学習したことを定着させる為、必ず毎回の講義範囲を復習すること。</p>						
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>1年生の前期で総論が終了し、前期から柔道整復学各論となります。解剖学の骨筋の復習や機能解剖を学習し、脱臼とは何か、軟部組織とは何かなど構造学的に学び、外傷である脱臼、軟部組織損傷とはなにかを理論的に学習していき、柔道整復理論は暗記ではなく理屈を考え学習していきましょう。</p>						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義を通じての到達目標	各項目ごと的小テストを解答でき、復習時間の質問に答えられる		教科書(柔道整復学理論編・実技編)、配布プリント	1年次に履修した講義の復習をしておくこと	
	各コマにおける授業予定	D・手関節部の脱臼 ・機能解剖				
第2回	講義を通じての到達目標	各項目ごと的小テストを解答でき、復習時間の質問に答えられる		教科書(柔道整復学理論編・実技編)、配布プリント	講義の復習をし次回講義の予習をすること	
	各コマにおける授業予定	E・手関節部の軟部組織損傷				
第3回	講義を通じての到達目標	各項目ごと的小テストを解答でき、復習時間の質問に答えられる		教科書(柔道整復学理論編・実技編)、配布プリント	講義の復習をし次回講義の予習をすること	
	各コマにおける授業予定	2-7. 手・指部の損傷 ・機能解剖				
第4回	講義を通じての到達目標	各項目ごと的小テストを解答でき、復習時間の質問に答えられる		教科書(柔道整復学理論編・実技編)、配布プリント	講義の復習をし次回講義の予習をすること	
	各コマにおける授業予定	E・中手指節関節、指節間関節の脱臼				
第5回	講義を通じての到達目標	各項目ごと的小テストを解答でき、復習時間の質問に答えられる		教科書(柔道整復学理論編・実技編)、配布プリント	講義の復習をし次回講義の予習をすること	
	各コマにおける授業予定	F・手部、指部の軟部組織損傷 G・注意すべき疾患				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義実習形式 授業を通じての到達目標	各項目ごと的小テストを解答でき、復習時間の質問に答えられる		教科書(柔道整復学理論編・実技編)、配布プリント	講義の復習をし次回講義の予習をすること
	各コマにおける授業予定	E・肩関節部の軟部組織損傷①			
第7回	講義実習形式 授業を通じての到達目標	各項目ごと的小テストを解答でき、復習時間の質問に答えられる		教科書(柔道整復学理論編・実技編)、配布プリント	講義の復習をし次回講義の予習をすること
	各コマにおける授業予定	E・肩関節部の軟部組織損傷② F・注意すべき疾患			
第8回	講義実習形式 授業を通じての到達目標	各項目ごと的小テストを解答でき、復習時間の質問に答えられる		教科書(柔道整復学理論編・実技編)、配布プリント	講義の復習をし次回講義の予習をすること
	各コマにおける授業予定	2-3. 上腕部の損傷 ・機能解剖			
第9回	講義実習形式 授業を通じての到達目標	各項目ごと的小テストを解答でき、復習時間の質問に答えられる		教科書(柔道整復学理論編・実技編)、配布プリント	講義の復習をし次回講義の予習をすること
	各コマにおける授業予定	C・上腕部の軟部組織損傷 D・注意すべき疾患			
第10回	講義実習形式 授業を通じての到達目標	各項目ごと的小テストを解答でき、復習時間の質問に答えられる		教科書(柔道整復学理論編・実技編)、配布プリント	講義の復習をし次回講義の予習をすること
	各コマにおける授業予定	2-4. 肘関節部の損傷 ・機能解剖			
第11回	講義実習形式 授業を通じての到達目標	各項目ごと的小テストを解答でき、復習時間の質問に答えられる		教科書(柔道整復学理論編・実技編)、配布プリント	講義の復習をし次回講義の予習をすること
	各コマにおける授業予定	E・肘関節部の軟部組織損傷①			
第12回	講義実習形式 授業を通じての到達目標	各項目ごと的小テストを解答でき、復習時間の質問に答えられる		教科書(柔道整復学理論編・実技編)、配布プリント	講義の復習をし次回講義の予習をすること
	各コマにおける授業予定	E・肘関節部の軟部組織損傷②			
第13回	講義実習形式 授業を通じての到達目標	各項目ごと的小テストを解答でき、復習時間の質問に答えられる		教科書(柔道整復学理論編・実技編)、配布プリント	講義の復習をし次回講義の予習をすること
	各コマにおける授業予定	F・注意すべき疾患			
第14回	講義実習形式 授業を通じての到達目標	各項目ごと的小テストを解答でき、復習時間の質問に答えられる		教科書(柔道整復学理論編・実技編)、配布プリント	全講義の復習をし前期末試験の準備をしておくこと
	各コマにおける授業予定	前期まとめと復習①			
第15回	演習実習形式 授業を通じての到達目標	前期履修内容の国家試験に準じた問題が解けるようになる			
	各コマにおける授業予定	総まとめ			